

パネルディスカッションの論点

■ 支援先機関の所感、今後の課題を踏まえ、下記の通り論点を整理した。ディスカッションにて論点を深めて参りたい。

論点	具体的な内容
①現状の自然関連 情報分析の方法論	<ul style="list-style-type: none"> ● ENCOREの標準的なセクターの分析結果と融資先の自然との関わりの実態値のギャップの解釈 ● GICS・産業サブグループと自行業種分類の紐づけの難しさ（対応関係、事業展開の幅） ● 要注意地域との接点の確認において、分析ツールの選び方、組合せのポイント ● 地域スケールの指標の有用性（KBA等都道府県単位で同一水準の指標の使いづらさ） ● リスク・機会例の優先順位の設定方法（定性ベース、定量化に向けて）
②今後の分析の 高度化	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域に存在する詳細データの評価への反映方法 ● LEAPアプローチの深度か、横展開（セクターの追加）か、決定のポイント
③分析結果の活用 （エンゲージメント等）	<ul style="list-style-type: none"> ● 融資先の実態値とギャップもある中、エンゲージメントでの分析結果の的確な伝え方 ● エンゲージメントにおける気候変動と自然資本の効果的な組合せ方 ● シナリオ分析における気候変動・自然資本の関連性の取扱い ● 融資判断材料に活用する上でのポイント ● 生物多様性（≒自然の状態指標）の重要性の効果的な伝え方（対経営層・行内・融資先等）
④地域金融機関に期 待される役割	<ul style="list-style-type: none"> ● 特に地域金融機関の特徴と役割、自然資本保全を推進する意義 ● ランドスケープアプローチを推進する上でのポイント（本プログラムでは生物多様性地域戦略（空間計画）・地域創生総合戦略（地域産業構造）を活用）